



令和5年度 第1回総合教育会議

令和5年12月19日



3. 議 事

重点項目1 新しい時代に対応できる力の育成

施策① 確かな学力を育成する教育の推進

協議事項

学力向上に向けたICTの利活用について

重点項目2 豊かな人間性とすこやかな体を育成する教育の推進

施策③ 体力向上のための運動の習慣化の推進

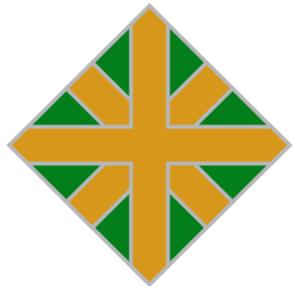
協議事項

部活動の現状と課題について



学力向上に向けた I C T の利活用について

学校教育部指導室



子どもが輝く岩見沢の教育づくり



～未来のトビラを拓く 教育のまち 岩見沢～

令和5年度

岩見沢市総合教育会議

重点項目 | 新しい時代に対応できる力の育成
施策① 確かな学力を育成する教育の推進



意見交換テーマ

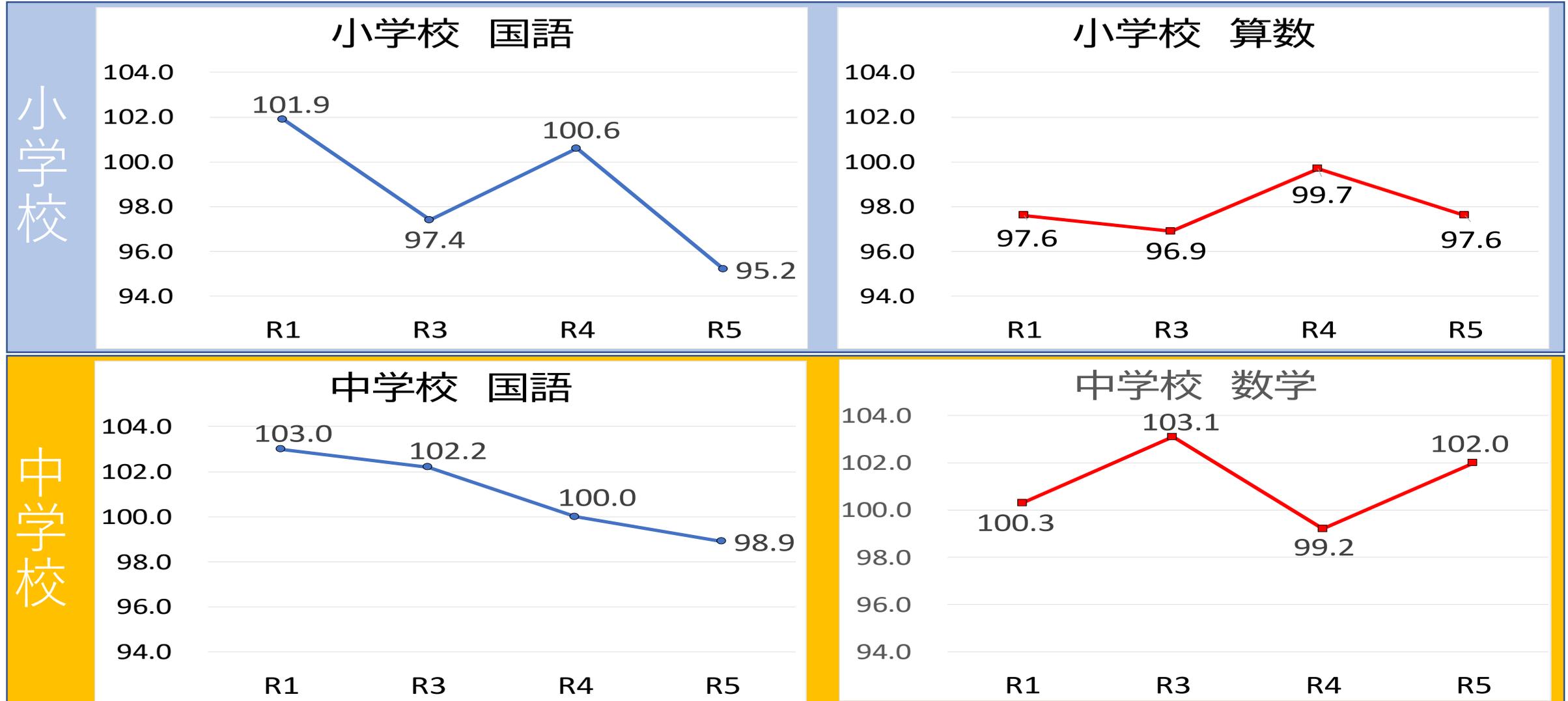
◆ ICTの活用について

- 1 ICTの活用状況について
- 2 ICTを活用した学習支援「OKスタディ」について
- 3 ICTを活用した次世代の学習支援「AIドリル」について



I ICTの活用状況について

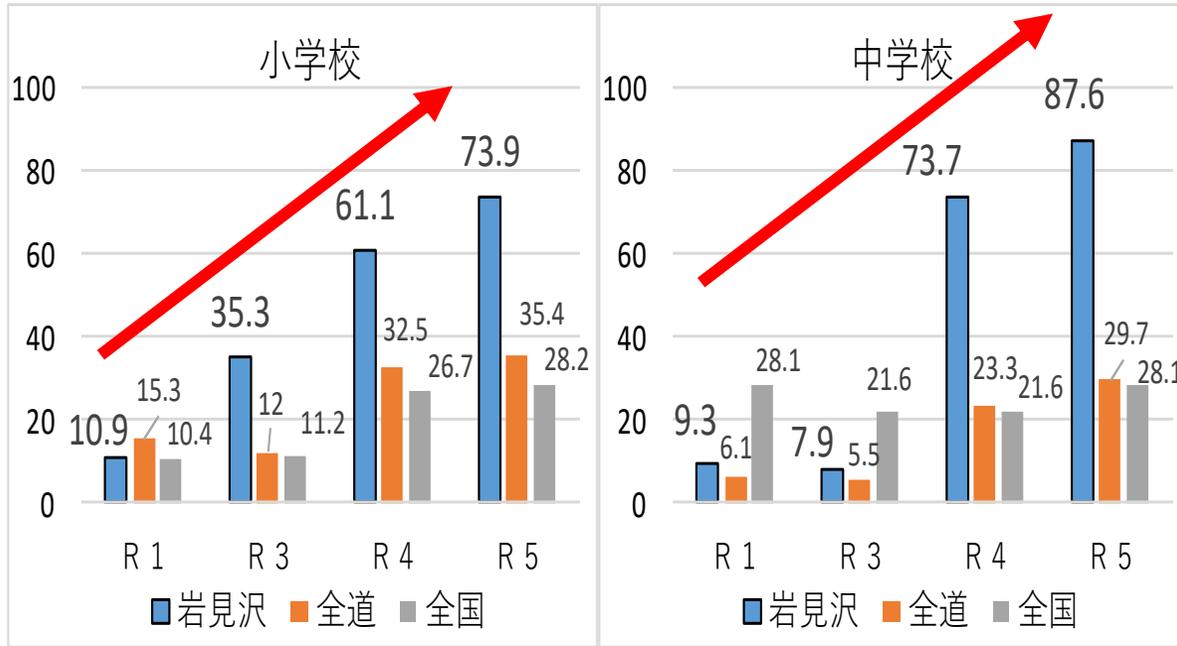
◆全国学力・学習状況調査結果の推移





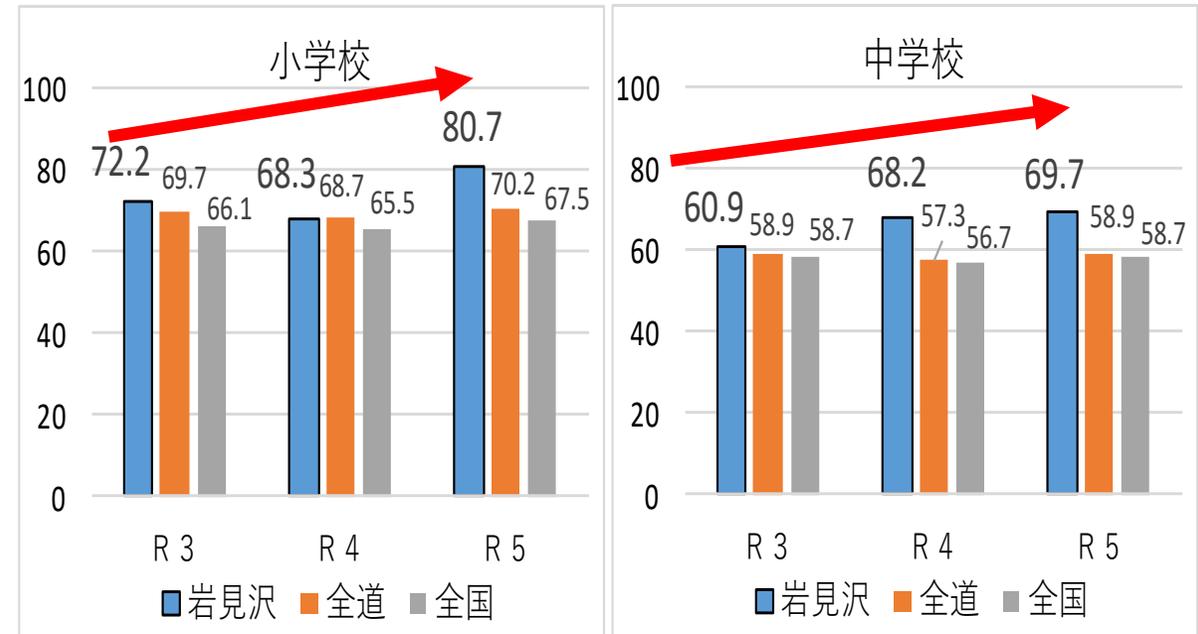
I ICTの活用状況について

1 授業で、タブレットなどのICT機器を、「ほぼ毎日」使用した児童生徒の割合



授業の中で、タブレットを日常的によく使っている。

2 学習の中で、タブレットなどのICT機器を使うのは「勉強の役に立つと思う」児童生徒の割合



タブレットを使った学習は役立つと感じる子どもが多い。

※数値は、全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙



I ICTの活用状況について

活用例1



ノートに
自分の考え

タブレット
で記録・共有

大画面で
発表・交流

活用例2



- ・自分の動きを動画で確認
- ・友達の動きをお手本に

活用例3

英語の発音が
正しいか
個別に確認





2 ICTを活用した学習支援「OKスタディ」について



子どもが輝く岩見沢の教育づくり



～未来のトビラを拓く 教育のまち 岩見沢～

◆本年度

名称	R5 OKスタディ
目的	基礎学力の向上
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、学校の進度に合わせた授業（5教科）を動画視聴できる。 ・英語検定筆記試験対策講座を動画視聴できる。
期間	令和5年8月1日～令和6年2月29日（7ヶ月）
講座数	<ul style="list-style-type: none"> ・数学28回、英語28回（月4回の配信）、英検4回 ・国語14回、社会、14回、理科14回（月2回の配信） <p>※ 1回の授業時間は60分</p>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに学習塾がなくても、塾の授業を受けることができる。 ・入院や欠席をしても講義形式の授業を受けることができる。 ・いつでもどこでも都合のよいときに何度も繰り返し視聴できる。 ・自分のペースで学ぶことができる。 ・下学年の授業動画の視聴もできるため、「学び直し」ができる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴にかかる通信料は各家庭にて負担



2 ICTを活用した学習支援「OKスタディ」について

オンデマンドによる個別の学び塾



メリット

- ①いつでも、どこでも、自分のペースで学習できること
- ②保護者の負担がないこと（無料提供）
- ③何度も繰り返し学習できること
- ④下学年の学習内容を復習できること
- ⑤不登校生徒へ学びの機会を提供できること



2 ICTを活用した学習支援「OKスタディ」について



活用例

オンデマンドによる個別の学び塾





2 ICTを活用した学習支援「OKスタディ」について

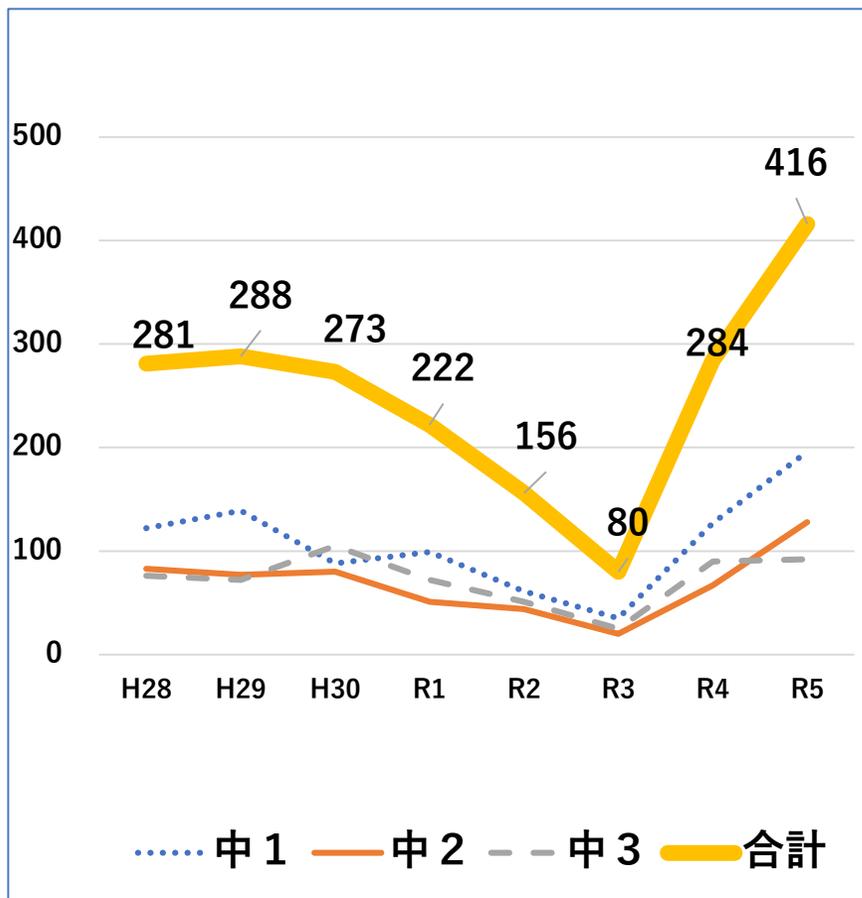


子どもが輝く岩見沢の教育づくり

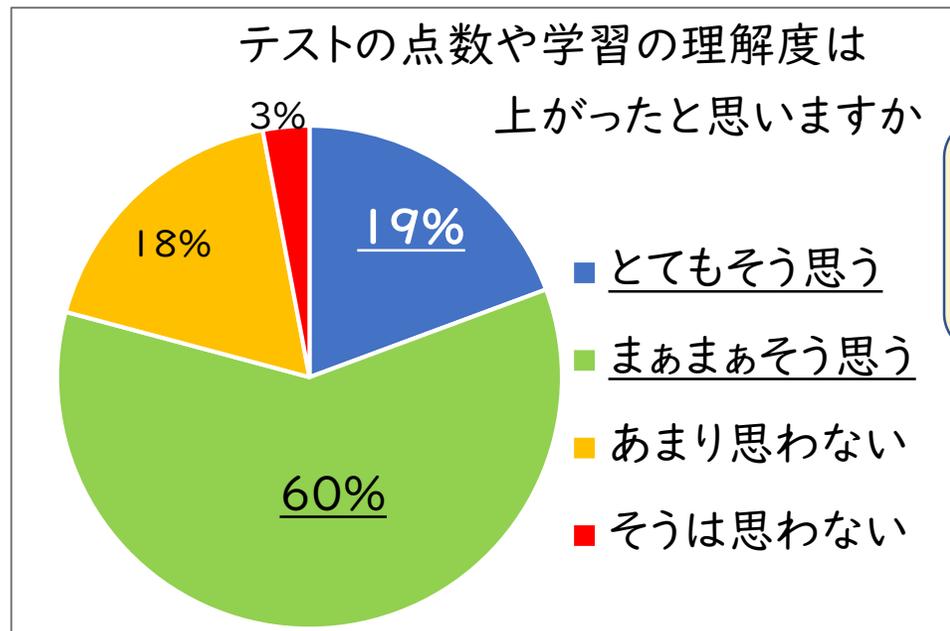


～未来のトビラを拓く 教育のまち 岩見沢～

◆利用状況の推移

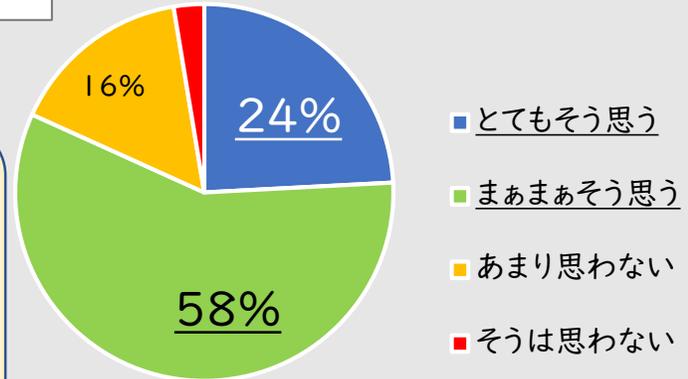


◆生徒の声 (R5:オンデマンドについて)



79%が成果を実感している。

勉強の方法やコツはつかめましたか

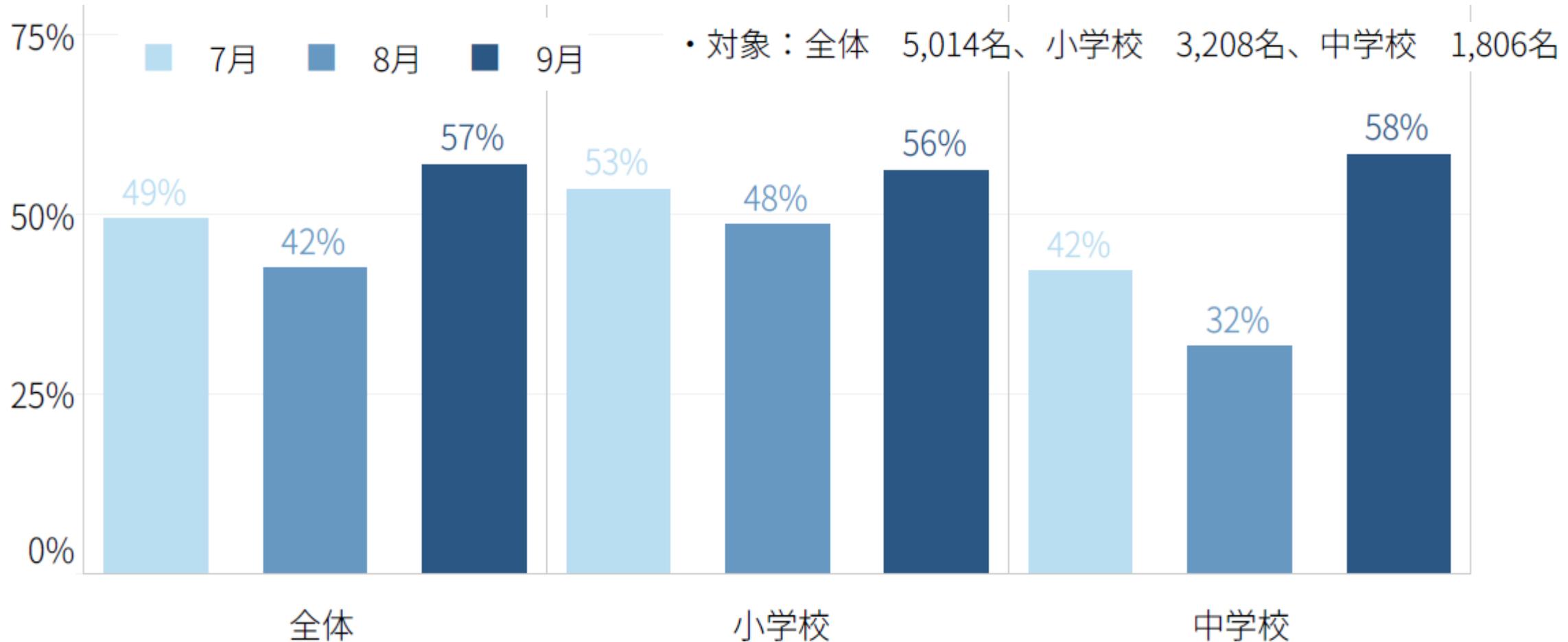


82%が勉強のきっかけになっている。

※R4以前の数値は、Sスタディ等の同様（学習塾との連携）の取組

◆AIドリルの活用

※R5無償期間（1年間）を利用し、
全小・中学校で試用運用可能な環境づくりを行った。



◆AIドリルの活用の実例 小学校2年算数「とけい」



【問題】

とけいが示している時間（10時30分）を答えましょう

- ①画面で問題確認
- ②手書きで「11」時「30」分
- ③「？」問い返し
- ④書き直し
- ⑤正解！
- ⑥次の問題

※②③⑤⑥でAIが判断

◆AIドリルのよさ・課題（各学校からの聞き取り 上位5つ）

	よ さ	課 題
1	個別のつまずきに応じた問題ができる	コストがかかる
2	学年を越えて復習・予習ができる	低学年では、実際に鉛筆で書くという力も重要
3	短時間で、効率よく学習ができる	教科・利用学年・利用方法を十分検討したい
4	子どもの苦手な学習内容がわかる	持ち帰りについては、WiFi環境が影響する
5	教員の負担軽減になる	現在、教科書の単元配列までは、配慮されていない

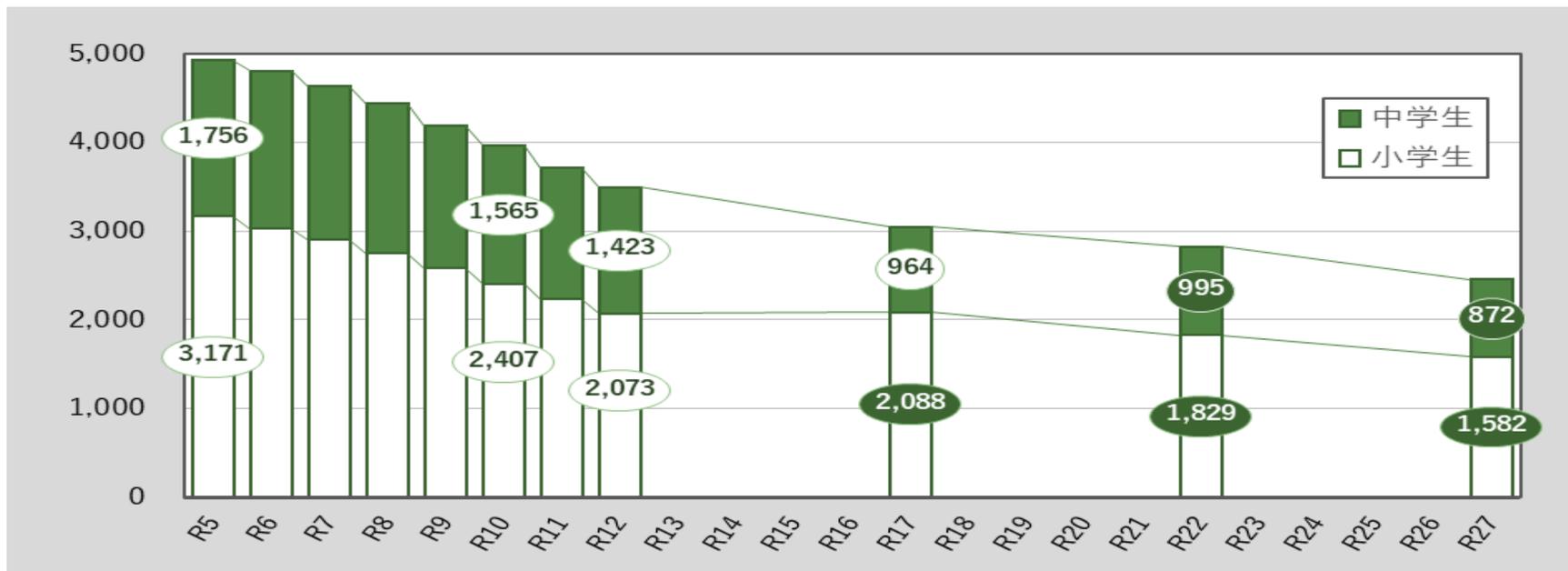


部活動の現状と課題について (部活動の地域移行)

学校教育部学校教育課



部活動の現状(生徒数の推移)



区分	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R17	R22	R27
東光中	349	332	292	279	266	262	257	243	164	170	149
光陵中	577	593	598	592	568	547	518	475	322	331	291
緑中	282	284	262	253	230	233	231	237	168	173	151
豊中	120	117	120	120	125	124	114	108	65	68	59
上幌向中	51	62	68	73	68	62	52	63	43	45	39
清園中	129	151	131	122	103	102	102	108	69	71	63
明成中	139	132	150	156	157	152	131	115	78	81	71
北村中	42	43	50	46	41	31	27	26	24	24	21
栗沢中	67	60	58	51	51	52	47	48	31	32	28
計	1,756	1,774	1,729	1,692	1,609	1,565	1,479	1,423	964	995	872

※R17までは、既出生している子どもが転出なく入学した場合の人数

※以降は社人研の推計（H30.12公表値）により算出



部活動の現状(運動部)



令和5年度 岩見沢市立中学校部活動の状況(学校別運動部)																	拠点校方式			R5.5.1															
学校名	競技選択数	生徒数			陸上競技		バスケット		野球		バレー		テニス		卓球		羽毛球		ダンス		ポソ	剣道		サッカー		運動部計			運動部加入率			指導者	内 専門家	専 門 家 率	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計						
光 陵	11	302	275	577	17	14	36	16	17	0	10	11	18	13	9	19	39	22	1	31	6	22	12	20	1	189	145	334	63%	53%	58%	28	11	39%	
東 光	6	188	161	349			38	14	19	0	5	12	6	5			27	21						11	2	106	54	160	56%	34%	46%	17	7	41%	
緑	6	142	140	282			33	15	14	0	0	20	4	11			21	18						11	1	83	65	148	58%	46%	52%	14	6	43%	
明 成	6	64	75	139				16	5	1		10			16	4	14	15						6	1	41	47	88	64%	63%	63%	15	4	27%	
清 園	5	62	67	129			13				11	12		23	10	10								3		37	45	82	60%	67%	64%	11	2	18%	
豊	4	61	59	120			15				2	6	1	7	10	11								4		32	24	56	52%	41%	47%	9	4	44%	
北 村	3	20	22	42							5	7					4	1						6	1	15	9	24	75%	41%	57%	7	4	57%	
栗 沢	2	34	33	67					17	1		13														17	14	31	50%	42%	46%	5	4	80%	
上幌向	1	27	24	51													17	10								17	10	27	63%	42%	53%	4	1	25%	
男女別					17	14	135	61	72	2	33	91	29	59	45	44	122	87	1	31	6	22	12	61	6										
男女計		900	856	1756			31	196	74		124		88		89		209		32	6		34		67		537	413	950	60%	48%	54%	110	43	39%	
指導者数					2		17		14		21		12		9		20		2		2		9		110			39%							
内 専門家					0		6		7		11		4		1		5		0		1		1		7		43								
外部指導者					0		0		0		0		1		0		0		0		0		5		8		14								



部活動の現状(文化部)



令和5年度 岩見沢市立中学校部活動の状況(学校別文化部)																				R5.5.1									
学 校 名	競 技 選 択 数	生 徒 数			吹 奏 楽		美 術		パ ソ コ ン		書 道		茶 道		サイ エ ン ス		総 合 文 化		技 術		文 化 部 計			文 化 部 加 入 率			指 導 者	内 専 門 家	専 門 家 率
		男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計					
光 陵	4	302	275	577	10	29	2	38	29	10	0	7									41	84	125	14%	31%	22%	9	2	22%
東 光	4	188	161	349	6	28	4	29	19	4			0	9							29	70	99	15%	43%	28%	8	3	38%
緑	3	142	140	282	2	19	4	28							18	4					24	51	75	17%	36%	27%	6	3	50%
明 成	2	64	75	139			0	8	1	5											1	13	14	2%	17%	10%	3	1	33%
清 園	1	62	67	129			6	11													6	11	17	10%	16%	13%	2	1	50%
豊	1	61	59	120			3	17											15	10	18	27	45	30%	46%	38%	4	2	50%
北 村	2	20	22	42	0	3											0	7			0	10	10	0%	45%	24%	3	1	33%
栗 沢	1	34	33	67	2	6															2	6	8	6%	18%	12%	3	2	67%
上幌向	1	27	24	51			1	6													1	6	7	4%	25%	14%	3	1	33%
男女別		900	856	1756	20	85	20	137	49	19	0	7	0	9	18	4	0	7	15	10	122	278	400	14%	32%	23%	41	16	39%
男女計					105		157	68		7		9	22		7		25												
指導者数					13		14		4		2		2		2		2		2		41	39%							
内 専門家					7		8		0		0		0		1		0		0		16								
外部指導者					1		0		0		0		0		0		0		0		1								



部活動における課題と現在の取組状況について



1 部活動の現状における課題

- 学校間で部活動種目の選択肢の格差が大きい(光陵中15 上幌向中2)
- 1校ではチーム編成ができない種目が増えている。
- 人気があっても、新しい種目を増やすことが難しい。(指導する教員がいない)
- 部活動を指導できる教員(専門家)が少なく、未経験者が顧問として指導せざるを得ない。(専門家率39%)
- 中学校教員の半数が部活動の指導を希望していない。
- 今後も生徒数の減少が進むため、部活動の存続がより困難になる。

2 地域移行における課題

- 地域移行の受け皿となる組織の育成
- 生徒の安全で安価な移動手段の確保
- 保護者負担の軽減
- 指導者の確保
- 生徒や保護者、地域住民などの理解促進
- 種目によって、地域移行への意識に温度差があり、個別の対応が求められる。

取組状況	実施による効果等
<input type="checkbox"/> 合同部活動(軟式野球、バレーボール)の実施	<input type="checkbox"/> 部員数が少なくても他校と合同で大会へ出られる。
<input type="checkbox"/> 拠点校部活動(サッカー、剣道、ソフトボール)の実施	<input type="checkbox"/> どの中学に在籍していても参加ができる。
<input type="checkbox"/> 地域移行を見据えた検討組織の構築(教育大学、各種目の顧問)	<input type="checkbox"/> 種目別の現状を把握し、状況に応じた対策を検討
<input type="checkbox"/> 保護者、競技団体、教員などとの意見交換(4回実施)	<input type="checkbox"/> 部活動における課題の共有と地域移行への理解促進
<input type="checkbox"/> 部活動指導員の配置(ソフトテニス、卓球)	<input type="checkbox"/> 専門的な指導の確保と教員負担の軽減
<input type="checkbox"/> 部活動コーディネーターの配置	<input type="checkbox"/> 部活動の現状把握のほか、学校、保護者、競技団体などと、今後に関する具体的な協議、調整等を推進



拠点校部活動(サッカー)の活動状況について

拠点校方式によるサッカーの取組み

- 令和5年度から拠点校部活動を実施し、市内7校から64名（5/1現在）が参加 ※月形中から1名参加
- 生徒の競技レベルや希望に応じた4つのカテゴリーで活動（レベルに応じた3つのリーグ戦に参加）
- 指導者は、サッカーを専門とする教員のほか、教育大学のサッカー部員も指導に携わる。
- 火曜、木曜、土曜の週3日間の活動を基本とし、教育大学や明成中のグラウンドなど（室内シーズンは体育館）で練習

Aチーム	Bチーム	1年生チーム	FUNチーム
<ul style="list-style-type: none"> 道央カブスリーグ2部に参加 3年生と2年生で構成 	<ul style="list-style-type: none"> 空知カブスリーグに参加 3年生と2年生で構成 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道カブスU13リーグに参加 1年生で構成 	<ul style="list-style-type: none"> 大会には出場しない サッカーを楽しみたい生徒で構成





部活動の今後の方向性について



目指すべき姿

子どもたちが望む文化芸術やスポーツの活動ができるよう、学校主体の部活動から多くの地域住民が関わり活動を支える地域クラブ活動へ移行できる仕組みを構築する。

短期的な方針

- 拠点校方式の部活動の実施種目を拡大し、学校間の部活動種目の格差の解消を進める。
- 拠点校方式での実施状況を踏まえ、地域クラブ活動への移行を検討する。
- 国の「地域クラブ活動への移行に向けた実証事業」への採択を目指し、複数の種目で実証事業に取り組む。

実証事業の概要

- 関係者と協議の上、実証に取り組むことが可能な種目を調整し、地域の指導者による部活動指導を実施（生徒への指導は、部活動の指導を望む教員のほか、競技団体等の指導者を想定）
 - 生徒の安全で安価な移動手段の検討
 - 生徒や保護者、地域住民などの理解促進に向けたシンポジウムの開催や広報活動の実施
- ※実証事業の実施にあたっては、教育大学との連携のほか、各地で地域移行の取組みに携わる方をアドバイザーとして招聘し、市教委を含めた三者で協議しながら取り組む。